

平成22年度 東北大学2次試験前期日程(数学問題)150分
理系(理, 医(医・保健(放射線・検査)), 歯, 薬, 工, 農)

問題 1 2 3 4 5 6

1 $f(x) = x^3 + 3x^2 - 9x$ とする. $y < x < a$ を満たすすべての x, y に対して

$$f(x) > \frac{(x-y)f(a) + (a-x)f(y)}{a-y}$$

が成り立つような a の範囲を求めよ.

2 a, b を正の実数とする. 曲線 $C: y = x^3 - a^2x + a^3$ と点 $P(b, 0)$ を考える. 以下の問いに答えよ.

- (1) 点 P から曲線 C に接線がちょうど3本引けるような点 (a, b) の存在する領域を図示せよ.
- (2) 点 P から曲線 C に接線がちょうど2本引けるとする. 2つの接点を A, B としたとき, $\angle APB$ が 90° より小さくなるための a と b の条件を求めよ.

3 1, 2, 3, 4の数字が1つずつ書かれた4枚のカードを用いて, 次の手順で5桁の整数をつくる. まず1枚を取り出して現れた数字を1の位とする. 取り出した1枚を元に戻し, 4枚のカードをよく混ぜて, 再び1枚を取り出して現れた数字を10の位とする. このような操作を5回繰り返して, 5桁の整数をつくる. 得られた整数を X とするとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) X に数字1がちょうど2回現れる確率を求めよ.
- (2) X に数字1と数字2がちょうど1回ずつ現れる確率を求めよ.
- (3) X にちょうど2回現れる数字が1種類以上ある確率を求めよ.

4 四面体 ABCD において、辺 AB の中点を M、辺 CD の中点を N とする。以下の問いに答えよ。

(1) 等式

$$\vec{PA} + \vec{PB} = \vec{PC} + \vec{PD}$$

を満たす点 P は存在するか。証明をつけて答えよ。

(2) 点 Q が等式

$$|\vec{QA} + \vec{QB}| = |\vec{QC} + \vec{QD}|$$

を満たしながら動くとき、点 Q が描く図形を求めよ。

(3) 点 R が等式

$$|\vec{RA}|^2 + |\vec{RB}|^2 = |\vec{RC}|^2 + |\vec{RD}|^2$$

を満たしながら動くとき、内積 $\vec{MN} \cdot \vec{MR}$ は R のとり方によらず一定であることを示せ。

(4) (2) の点 Q が描く図形と (3) の点 R が描く図形が一致するための必要十分条件は $|\vec{AB}| = |\vec{CD}|$ であることを示せ。

5 $0 < t < 3$ のとき、連立不等式

$$\begin{cases} 0 \leq y \leq \sin x \\ 0 \leq x \leq t - y \end{cases}$$

の表す領域を x 軸のまわりに回転して得られる立体の体積を $V(t)$ とする。

$\frac{d}{dt}V(t) = \frac{\pi}{4}$ となる t と、そのときの $V(t)$ の値を求めよ。

6 xy 平面において、原点を中心とし $P(1, 0)$ を頂点の 1 つとする正 6 角形を X とする。 A を 2 次の正方行列とし、 X の各頂点 (x, y) に対して、行列 A の表す移動

$$\begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

で得られる点 (x', y') は X の辺上の点 (頂点を含む) であるとする。以下の問いに答えよ。

(1) 点 P が行列 A の表す移動で P 自身に移るとき、 X の各頂点は X のいずれかの頂点に移ることを示せ。また、そのときの行列 A を求めよ。

(2) 点 P が行列 A の表す移動で X のある頂点に移るとき、 X の各頂点は X のいずれかの頂点に移ることを示せ。また、そのときの行列 A を求めよ。

解答例

$$\boxed{1} \quad f(x) > \frac{(x-y)f(a) + (a-x)f(y)}{a-y} \quad \text{より } (y < x < a)$$

$$\begin{aligned} \{(a-x) + (x-y)\}f(x) &> (x-y)f(a) + (a-x)f(y) \\ (a-x)\{f(x) - f(y)\} &> (x-y)\{f(a) - f(x)\} \end{aligned}$$

$$a-x > 0, x-y > 0 \text{ に注意して } \frac{f(x) - f(y)}{x-y} > \frac{f(a) - f(x)}{a-x} \quad \dots (*)$$

$$f(x) = x^3 + 3x^2 - 9x \text{ より}$$

$$\begin{aligned} f(x) - f(y) &= (x^3 - y^3) + 3(x^2 - y^2) - 9(x - y) \\ \frac{f(x) - f(y)}{x-y} &= x^2 + xy + y^2 + 3(x+y) - 9 \end{aligned}$$

上式を (*) に適用すると

$$x^2 + xy + y^2 + 3(x+y) - 9 > a^2 + ax + x^2 + 3(a+x) - 9$$

$$\text{整理すると } (y-a)(x+y+a+3) > 0 \quad \text{ゆえに } -x-y-a-3 > 0$$

$$\text{上の第2式から } (a-x) + (a-y) - 3a - 3 > 0$$

$a-x > 0, a-y > 0$ であるから、これが常に成立する条件は

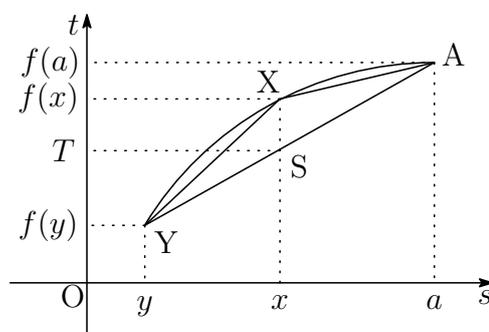
$$-3a - 3 \geq 0 \quad \text{すなわち } a \leq -1$$

解説 曲線 $t = f(s)$ 上の2点 $Y(y, f(y)), A(a, f(a))$ を通る直線の方程式は

$$t - f(y) = \frac{f(a) - f(y)}{a-y}(s-y) \quad \text{すなわち } t = \frac{(s-y)f(a) + (a-s)f(y)}{a-y}$$

$$\text{直線 YA 上の点 } S(x, T) \text{ について } T = \frac{(x-y)f(a) + (a-x)f(y)}{a-y}$$

曲線 $t = f(s)$ 上の点 $X(x, f(x))$ について、条件から、点 X は点 S より常に上側にある。したがって、この区間において、 $t = f(s)$ は上に凸である。 $f''(s) = 6s+6$ より、 $f''(s) \leq 0$ となるのは、 $s \leq -1$ 。また、(*) は、直線 YX, XA の傾きの大小関係を表している。



2 (1) $C: y = x^3 - a^2x + a^3$ より $y' = 3x^2 - a^2$

C 上の点 $(t, t^3 - a^2t + a^3)$ における接線の方程式は

$$y - (t^3 - a^2t + a^3) = (3t^2 - a^2)(x - t)$$

すなわち $y = (3t^2 - a^2)x - 2t^3 + a^3$

この直線上に点 $P(b, 0)$ があるとき

$$0 = (3t^2 - a^2)b - 2t^3 + a^3 \quad \text{ゆえに} \quad 2t^3 - 3bt^2 + a^2b - a^3 = 0$$

$f(t) = 2t^3 - 3bt^2 + a^2b - a^3$ とおくと

$$f'(t) = 6t^2 - 6bt = 6t(t - b)$$

$b > 0$ より, $f(t)$ の増減表は

| | | | | | |
|---------|-----|----|-----|-----|-----|
| t | ... | 0 | ... | b | ... |
| $f'(t)$ | + | 0 | - | 0 | + |
| $f(t)$ | ↗ | 極大 | ↘ | 極小 | ↗ |

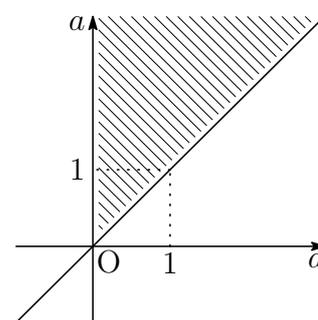
このとき, 3次方程式 $f(t) = 0$ が異なる3つの実数解をもてばよいので, $f(0) > 0$, $f(b) < 0$ より

$$f(0) = a^2b - a^3 = a^2(b - a) > 0,$$

$$\begin{aligned} f(b) &= -a^3 + a^2b - b^3 \\ &= -a^2(b - a) - b^3 < 0 \end{aligned}$$

点 (a, b) の満たす条件は $b > a > 0$

よって, 右の図の斜線部分で境界線を含まない.



(2) 点 P から曲線 C に接線が2本引ける, すなわち, 方程式 $f(t) = 0$ がちょうど2つの実数解をもつのは, 次の (i) または (ii) の場合である.

(i) $f(0) = 0$ のとき, $a^2(b - a) = 0$ より ($a > 0$) $b = a$

(ii) $f(b) = 0$ のとき, $-a^3 + a^2b - b^3 = 0$ より $a^3 - a^2b + b^3 = 0$

$a \geq b > 0$ のとき $a^3 - a^2b + b^3 = a^2(a - b) + b^3 > 0$

$b \geq a > 0$ のとき $a^3 - a^2b + b^3 = a^3 + b(b^2 - a^2) > 0$

したがって, $a^3 - a^2b + b^3 > 0$ となり, 不適.

(i) の結果から, $b = a$ のとき, 方程式 $f(t) = 0$ は

$$2t^3 - 3at^2 = 0 \quad \text{これを解いて} \quad t = 0, \frac{3a}{2}$$

C 上の $t = 0, \frac{3a}{2}$ に対応する点をそれぞれ, A, B とすると

$$A(0, a^3), \quad B\left(\frac{3}{2}a, \frac{23}{8}a^3\right)$$

このとき, $P(a, 0)$ であるから

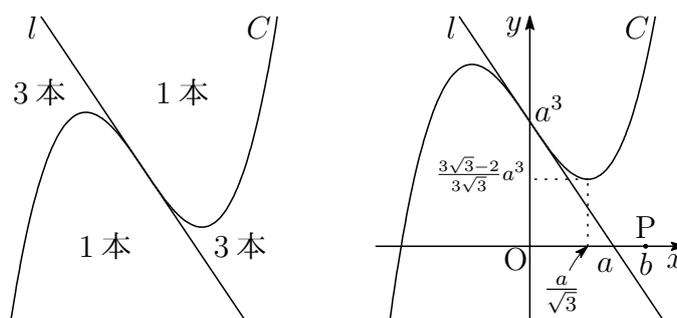
$$\vec{PA} = (-a, a^3) = a(-1, a^2), \quad \vec{PB} = \left(\frac{a}{2}, \frac{23}{8}a^3\right) = \frac{a}{2}\left(1, \frac{23}{4}a^3\right)$$

$\angle APB < 90^\circ$ のとき, $\vec{PA} \cdot \vec{PB} > 0$ であるから

$$-1 \cdot 1 + a^2 \cdot \frac{23}{4}a^2 > 0 \quad \text{ゆえに} \quad a^4 > \frac{4}{23} \quad \text{よって} \quad a > \sqrt[4]{\frac{4}{23}}$$

したがって, 求める条件は $b = a > \sqrt[4]{\frac{4}{23}}$

解説 C の変曲点における接線を l とすると, 座標平面上の点から曲線 C に引ける接線の本数は, C と l を境界とする領域によって左下の図のようになる. 変曲点を除く C と l 上の点からは 2 本, 変曲点からは 1 本引ける.



C 上の変曲点 $(0, a^3)$ における接線 l の方程式は $y = -a^2x + a^3$

この接線と x 軸との交点の x 座標は $x = a$

C が $x \geq 0$ において, $y \geq 0$ であることに注意すると, x 軸上の正の部分にある点 P から C に 3 本の接線が引けるのは, $b > a$ のときである.

C に P から 2 本の接線が引けるのは, 変曲点を除く C または l 上に P があるときで, P は x 軸上の点 (x 座標は正) であるから, P は l と x 軸との交点 $(a, 0)$, A は変曲点 $(0, a^3)$ であることが分かる. ■

- 3** (1) 1のカードを取り出す確率は $\frac{1}{4}$ 、1以外のカードを取り出す確率は $\frac{3}{4}$ であるから、5回取り出すとき、1のカードがちょうど2回現れる確率は

$${}^5C_2 \left(\frac{1}{4}\right)^2 \left(\frac{3}{4}\right)^3 = \frac{135}{512}$$

- (2) 1, 2のカードを取り出す確率はともに $\frac{1}{4}$ 、1, 2以外のカードを取り出す確率は $\frac{1}{2}$ であるから、5回取り出すとき、1のカードと2のカードを1回ずつ取り出す確率は

$$\frac{5!}{1!1!3!} \cdot \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{4} \left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{5}{32}$$

- (3) 2回現れる数字が1種類以上となるのは、次の場合がある。

- (i) 2回現れる数字が1つで、それ以外の数字が1回ずつ。(2回現れる数字Aに対してそれ以外の数字B, C, Dは一意的に定まる)

$${}^4C_1 \cdot \frac{5!}{2!1!1!1!} \left(\frac{1}{4}\right)^5 = 2 \cdot \frac{5!}{4^5}$$

- (ii) 2回現れる数字が2つで、それ以外の数字が1回。(2回現れる数字A, Bの選び方 4C_2 通り、それ以外の数字Cの選び方は2通り)

$${}^4C_2 \cdot 2 \cdot \frac{5!}{2!2!1!} \left(\frac{1}{4}\right)^5 = 3 \cdot \frac{5!}{4^5}$$

- (iii) 2回現れる数字が1つと3回現れる数字が1つ。(2回現れる数字A, 3回現れる数字Bの選び方は 4P_2 通り)

$${}^4P_2 \cdot \frac{5!}{2!3!} \left(\frac{1}{4}\right)^5 = \frac{5!}{4^5}$$

(i),(ii),(iii) より $(2 + 3 + 1) \frac{5!}{4^5} = \frac{45}{64}$ ■

- 4 (1) 辺 AB の中点が M, 辺 CD の中点が N であるから

$$\overrightarrow{PM} = \frac{\overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PB}}{2}, \quad \overrightarrow{PN} = \frac{\overrightarrow{PC} + \overrightarrow{PD}}{2}$$

等式 $\overrightarrow{PA} + \overrightarrow{PB} = \overrightarrow{PC} + \overrightarrow{PD}$ が存在するとき

$$2\overrightarrow{PM} = 2\overrightarrow{PN} \quad \text{ゆえに} \quad \overrightarrow{PN} - \overrightarrow{PM} = \vec{0}$$

$\overrightarrow{MN} = \vec{0}$ となり, 不適. よって, 等式を満たす点 P は存在しない.

- (2) 2点 M, N の中点を O とすると

$$\begin{aligned} \overrightarrow{QA} + \overrightarrow{QB} &= (\overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OQ}) + (\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OQ}) \\ &= 2(\overrightarrow{OM} - \overrightarrow{OQ}), \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{QC} + \overrightarrow{QD} &= (\overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OQ}) + (\overrightarrow{OD} - \overrightarrow{OQ}) \\ &= 2(\overrightarrow{ON} - \overrightarrow{OQ}) \end{aligned}$$

$$|\overrightarrow{QA} + \overrightarrow{QB}| = |\overrightarrow{QC} + \overrightarrow{QD}| \quad \text{より}$$

$$|\overrightarrow{OM} - \overrightarrow{OQ}| = |\overrightarrow{ON} - \overrightarrow{OQ}|$$

上式の両辺を平方すると

$$|\overrightarrow{OM}|^2 - 2\overrightarrow{OM} \cdot \overrightarrow{OQ} + |\overrightarrow{OQ}|^2 = |\overrightarrow{ON}|^2 - 2\overrightarrow{ON} \cdot \overrightarrow{OQ} + |\overrightarrow{OQ}|^2$$

$|\overrightarrow{OM}| = |\overrightarrow{ON}|$ に注意して, 整理すると

$$\overrightarrow{ON} \cdot \overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OM} \cdot \overrightarrow{OQ} = 0 \quad \text{すなわち} \quad \overrightarrow{MN} \cdot \overrightarrow{OQ} = 0$$

よって, Q は 2点 M, N の中点 O を通り, \overrightarrow{MN} に垂直な平面を描く.

- (3) $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c}), D(\vec{d}), M(\vec{m}), N(\vec{n}), R(\vec{r})$ とし, これを等式

$$|\overrightarrow{RA}|^2 + |\overrightarrow{RB}|^2 = |\overrightarrow{RC}|^2 + |\overrightarrow{RD}|^2$$

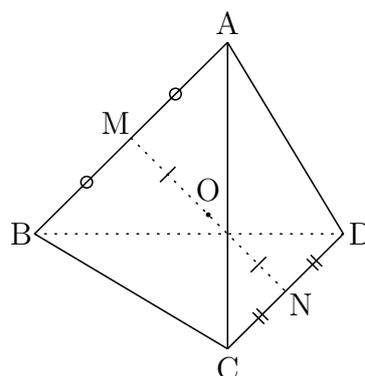
に代入すると

$$\begin{aligned} |\vec{a} - \vec{r}|^2 + |\vec{b} - \vec{r}|^2 &= |\vec{c} - \vec{r}|^2 + |\vec{d} - \vec{r}|^2 \\ |\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 - 2(\vec{a} + \vec{b}) \cdot \vec{r} &= |\vec{c}|^2 + |\vec{d}|^2 - 2(\vec{c} + \vec{d}) \cdot \vec{r} \end{aligned}$$

$\vec{a} + \vec{b} = 2\vec{m}, \vec{c} + \vec{d} = 2\vec{n}$ であるから

$$4(\vec{n} - \vec{m}) \cdot \vec{r} = -|\vec{a}|^2 - |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 + |\vec{d}|^2$$

$\overrightarrow{MN} = \vec{n} - \vec{m}$ に注意して $4\overrightarrow{MN} \cdot \vec{r} = -|\vec{a}|^2 - |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 + |\vec{d}|^2 \quad \dots (*)$



(*) の位置ベクトルの始点を M とすると

$$4\overrightarrow{MN} \cdot \overrightarrow{MR} = -|\overrightarrow{MA}|^2 - |\overrightarrow{MB}|^2 + |\overrightarrow{MC}|^2 + |\overrightarrow{MD}|^2$$

よって、内積 $\overrightarrow{MN} \cdot \overrightarrow{MR}$ は R のとり方によらず一定である。

(4) (*) の位置ベクトルの始点を O とすると

$$4\overrightarrow{MN} \cdot \overrightarrow{OR} = -(|\overrightarrow{OA}|^2 + |\overrightarrow{OB}|^2) + |\overrightarrow{OC}|^2 + |\overrightarrow{OD}|^2 \quad \dots (**)$$

このとき

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{OA}|^2 + |\overrightarrow{OB}|^2 &= |\overrightarrow{OM} + \overrightarrow{MA}|^2 + |\overrightarrow{OM} - \overrightarrow{MA}|^2 \\ &= 2|\overrightarrow{OM}|^2 + 2|\overrightarrow{MA}|^2 = 2|\overrightarrow{OM}|^2 + \frac{1}{2}|\overrightarrow{AB}|^2, \\ |\overrightarrow{OC}|^2 + |\overrightarrow{OD}|^2 &= |\overrightarrow{ON} + \overrightarrow{NC}|^2 + |\overrightarrow{ON} - \overrightarrow{NC}|^2 \\ &= 2|\overrightarrow{ON}|^2 + 2|\overrightarrow{NC}|^2 = 2|\overrightarrow{ON}|^2 + \frac{1}{2}|\overrightarrow{CD}|^2 \end{aligned}$$

上の 2 式を $|\overrightarrow{OM}| = |\overrightarrow{ON}|$ に注意して、(**) に代入すると

$$4\overrightarrow{MN} \cdot \overrightarrow{OR} = \frac{1}{2}(|\overrightarrow{CD}|^2 - |\overrightarrow{AB}|^2)$$

したがって $|\overrightarrow{AB}| = |\overrightarrow{CD}| \iff \overrightarrow{MN} \cdot \overrightarrow{OR} = 0$

これと (2) の結果から、点 Q が描く図形と点 R が描く図形が一致するための必要十分条件は $|\overrightarrow{AB}| = |\overrightarrow{CD}|$ である。

補足 (2) は、 $|\overrightarrow{QA} + \overrightarrow{QB}| = |\overrightarrow{QC} + \overrightarrow{QD}|$ より

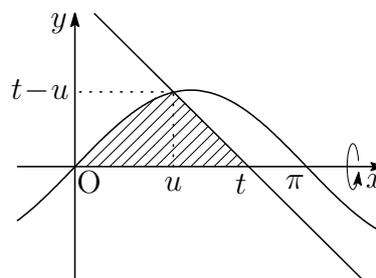
$$|2\overrightarrow{QM}| = |2\overrightarrow{QN}| \quad \text{すなわち} \quad |\overrightarrow{MQ}| = |\overrightarrow{NQ}|$$

よって、点 Q は 2 点 M, N から等距離にある、すなわち、線分 MN の垂直二等分面を描く。(これでもよいが、(4) との形式を合わせるために先の解答を与えた。) ■

5 $0 < t < 3$ のとき, 連立不等式

$$\begin{cases} 0 \leq y \leq \sin x \\ 0 \leq x \leq t - y \end{cases}$$

の表す領域は, 右の図の斜線部分である. このとき, 曲線 $y = \sin x$ と直線 $x = t - y$ の共有点の x 座標を u とすると



$$u = t - \sin u \quad \text{ゆえに} \quad t = u + \sin u \quad \text{したがって} \quad \frac{dt}{du} = 1 + \cos u$$

図の斜線部分を x 軸のまわりに回転させた立体の体積 $V(t)$ は

$$\begin{aligned} V(t) &= \pi \int_0^u \sin^2 x \, dx + \frac{1}{3} \pi (t - u)^2 \cdot (t - u) = \pi \int_0^u \sin^2 x \, dx + \frac{\pi}{3} \sin^3 u \quad \cdots (*) \\ &= \frac{\pi}{2} \int_0^u (1 - \cos 2x) \, dx + \frac{\pi}{3} \sin^3 u = \frac{\pi}{2} \left[x - \frac{1}{2} \sin 2x \right]_0^u + \frac{\pi}{3} \sin^3 u \\ &= \pi \left(\frac{1}{2} u - \frac{1}{4} \sin 2u + \frac{1}{3} \sin^3 u \right) \quad \cdots (**) \end{aligned}$$

(*) を t について微分すると

$$\begin{aligned} \frac{d}{dt} V(t) &= \pi \sin^2 u \frac{du}{dt} + \pi \sin^2 u \cos u \frac{du}{dt} \\ &= \pi \sin^2 u (1 + \cos u) \frac{du}{dt} = \pi \sin^2 u \end{aligned}$$

$$\frac{d}{dt} V(t) = \frac{\pi}{4} \quad \text{のとき} \quad \pi \sin^2 u = \frac{\pi}{4} \quad 0 \leq u < 3 \text{ であるから, } \sin u > 0 \text{ より}$$

$$\sin u = \frac{1}{2} \quad \text{すなわち} \quad u = \frac{\pi}{6}, \frac{5}{6}\pi$$

$$(i) \quad u = \frac{\pi}{6} \text{ のとき} \quad t = \frac{\pi}{6} + \sin \frac{\pi}{6} < \frac{4}{6} + \frac{1}{2} = \frac{7}{6} < 3 \quad (\text{適する})$$

$$(ii) \quad u = \frac{5}{6}\pi \text{ のとき} \quad t = \frac{5}{6}\pi + \sin \frac{5}{6}\pi > \frac{5}{6} \cdot 3 + \frac{1}{2} = 3 \quad (\text{不適})$$

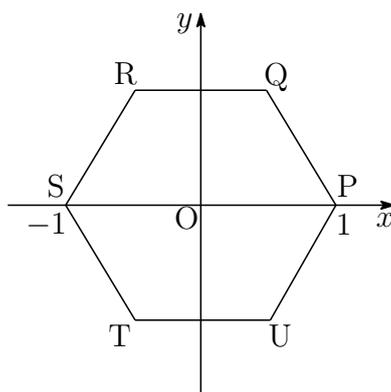
よって $t = \frac{5}{6}\pi + \frac{1}{2}$ (***) に $u = \frac{\pi}{6}$ を代入すると

$$V(t) = \pi \left(\frac{1}{2} \cdot \frac{\pi}{6} - \frac{1}{4} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{8} \right) = \pi \left(\frac{\pi}{12} - \frac{\sqrt{3}}{8} + \frac{1}{24} \right)$$



- 6 (1) A の表す線形写像を f とする. X 上の一边を点 x が移動するとき, その像 $f(x)$ は, 一定の方向に移動するので, X の頂点は, f によっていずれかの頂点に移動する. 条件により $f(P) = P$, P から Q を移動する点 $(1-t)P + tQ$ の像 $(1-t)f(P) + tf(Q)$ が X 上にあるから $(0 \leq t \leq 1)$, $f(Q)$ は Q または U である. したがって

$$f(Q) = Q \text{ のとき } \mathbf{A} = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad f(Q) = U \text{ のとき } \mathbf{A} = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$$



- (2) X の異なる 2 点 x_1, x_2 について, $f(x_1) \neq f(x_2)$ である. 実際, $f(x_1) = f(x_2)$ とすると, $x_1 - x_2 \neq \vec{0}$ に対して $f(x_1 - x_2) = \vec{0}$ となり, X の f による像は直線に退化するので, 条件に反する. 隣り合う 2 点を結ぶ線分の像は, f の線形性により, その像も隣り合う 2 辺に移る. したがって, f は原点の回りに $\frac{n\pi}{3}$ だけの回転および x 軸 (または y 軸) に関する鏡像変換の合成変換であるから

$$\mathbf{A} = \begin{pmatrix} \cos \frac{n\pi}{3} & -\sin \frac{n\pi}{3} \\ \sin \frac{n\pi}{3} & \cos \frac{n\pi}{3} \end{pmatrix} \quad \text{または} \quad \mathbf{A} = \begin{pmatrix} \cos \frac{n\pi}{3} & -\sin \frac{n\pi}{3} \\ -\sin \frac{n\pi}{3} & -\cos \frac{n\pi}{3} \end{pmatrix}$$

である ($n = 0, 1, 2, 3, 4, 5$). ■